

【短報】沖縄島からツツイキバナガミズギワゴミムシを記録

ツツイキバナガミズギワゴミムシ *Bembidion tsutsuii* (Uéno, 1955) は、トカラ列島の中之島から記載された潮間帯に生息するミズギワゴミムシである。本種は、タイプ産地のほかに奄美大島（森田ら, 1996）、屋久島（Nakane, 1956）、長崎県（松尾・深川, 2008）、愛知県（森田ら, 1996）、静岡県（多比良・松本, 2000）、千葉県（亀澤, 2012）の沿岸部から限定的に見つかっている。

生息確認地によっては護岸工事などによりすでに絶滅したと考えられている地域もあり、自然海岸の減少が著しい今日、ほかにも発見されないまま消えていった生息地があったとしても不思議ではない。そのような理由によるものだろう、2012年に公表された環境省の第4次レッドリストに、本種は準絶滅危惧種として掲載されている。

筆者は沖縄島中部で本種を確認しているので報告する。

♂♂5♀♀, 沖縄県名護市瀬嵩, 8. V. 2014, 筆者保管。

沖縄島からは初記録となるとともに、現時点での本種の最南の生息場所である。確認地点は大浦湾の沿岸部で、近隣の海域では埋め立て工事が予定されている。

すべての個体が岩礁地帯の比較的大きな石下より採集された。満潮時には波に洗われるような場所であった。この時期、未成熟個体が半分以上を占め、羽化後時間を経っていない軟弱な個体もみられた。十分に成熟した個体では全体に黒っぽい、そうではない個体は特に頭胸部の赤みが強かった。同時に本種と思われる終齢サイズの幼虫も石下より確認された。

なお、琉球列島からは体色の濃い潮間帯性のキバナガミズギワゴミムシ類として徳之島から記載されたクロキバナガミズギワゴミムシ *Bembidion*

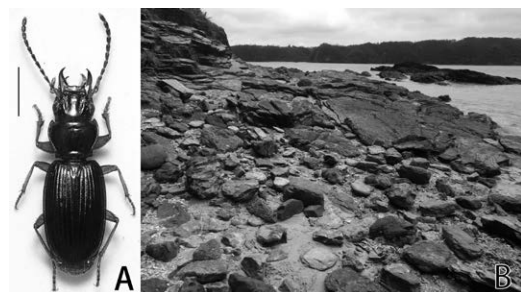


図1. ツツイキバナガミズギワゴミムシとその生息環境。A, ♂個体（沖縄島産、スケールは1 mm）；B, 大浦湾における確認環境。

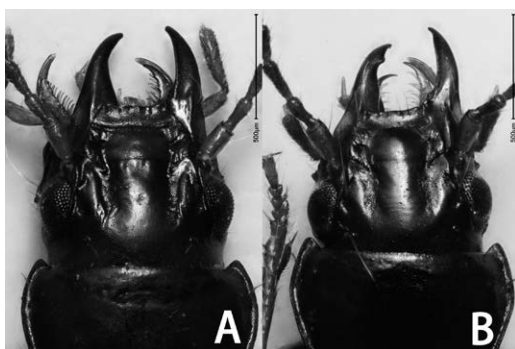


図2. 近似種と頭部を比較。A, ツツイキバナガミズギワゴミムシ頭部（沖縄島産、前頭溝はより深い）；B, クロキバナガミズギワゴミムシ頭部（沖縄島産、左の大あご先端付近に内歯をそなえる）。

tokunoshimanus (Nakane, 1956) が知られている。ツツイキバナガミズギワゴミムシでは、左の大あごの先端付近に内歯をそなえないこと、体色はより薄い傾向にあり、背面はより扁平で、上翅の光沢が鈍いことなどにより区別は容易である。

末筆ながら、比較標本を恵んでくださった森田誠司氏に心よりお礼申し上げる。

引用文献

- 亀澤 洋, 2012. 房総半島におけるツツイキバナガミズギワゴミムシの発見. さやばねニューシリーズ, (6): 36-37.
- 環境省, 2012. 報道発表資料, 第4次レッドリストの公表について (お知らせ). 添付資料, 別添資料 7-5 昆虫類のレッドリスト (平成 24 年 8 月 28 日) <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=15619>
- 松尾照男・深川元太郎, 2008. ツツイキバナガミズギワゴミムシ長崎県の記録. 甲虫ニュース, (163): 8.
- 森田誠司・白井勝巳・蟹江 昇・長谷川道明, 1996. 愛知県におけるキバナガミズギワゴミムシ類の採集記録. 豊橋市自然史博物館研報, (6): 27-30.
- Nakane, T., 1956. On a new species of *Armatocillenus* and its allies in Japan (Harpalidae: Trechinae). Insecta Matsumurana, (19): 101-104.
- 多比良嘉晃・松本雅道, 2000. 静岡県における海岸性甲虫相. 環境システム研究, (7): 39-71.
- Uéno, S. -I., 1955. Marine insects of the Tokara Islands VII. New species and new subspecies of the subfamily Trechinae (Coleoptera, Harpalidae). Publication of the Seto Marine Biological Laboratory, (4): 403-413.

(亀澤 洋 350-0825 川崎市月吉町 32-17)